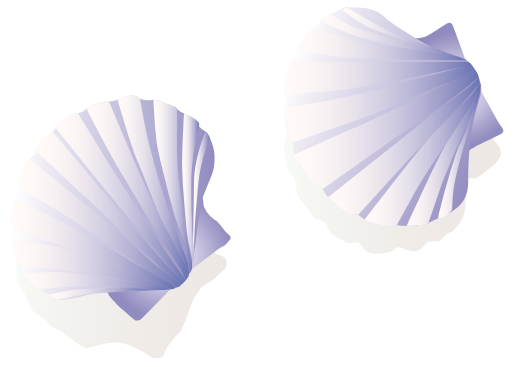


# SCOPE

Coverphoto・Essay / Ikuo Nakamura



## オホーツクの二枚目

オホーツクの魚の表情はとても面白い。いや、同じ日本の海でありながら、オホーツク産というだけで、姿、形がまるで違うのである。潜って出会う魚、出会う魚が、どれも初めて見るものばかり。どういふことになっているの？この海は...と、首を傾げたほどである。



©IKUO NAKAMURA

写真のフサギンボを見たときは、正直言って、声を出して笑ってしまった。その瞬間、頬がゆるみ、水中マスク内にドオツと海水がなだれ込んできた。思っきり鼻の中に海水が流入し、激しく咳き込んでしまった。海の住人の顔を見て、あからさまに笑ったバツである。

そうはいつでも、この顔はどう見ても普通じゃない。眼と眼の間にヒョイと立った細長いモノは、いったい何のためにあるのだろう。昔、街角で見かけた、お兄さんのリーゼントのようではないか。

ぶ厚い唇の下に生えた海藻のような突起物も、妙に意味深だ。これらは皮弁といい、皮膚の一部が進化してできたものだ。おそらく、隠れるときのカムフラージュに役立てるためのものだと思うが、見れば見るほどユニークだ。

一日の仕事を終え、疲れたとき、あるいは悲しいとき、さらにはどうしても大声で笑いたいときなどには、どうぞ、フサギンボをとくどご覧いただき、気分をリフレッシュしていただけたら幸いである。

## Profile

### 中村征夫(なかむら・いくお)

1945年 秋田県生まれ。20歳のとき自己流で潜水を始め、撮影プロダクション水中造形センターを経て77年よりフリーの水中写真家に。著書・作品集は『全・東京湾』『海中顔面博覧会』『白保』(情報センター出版局)、『ガラパゴス』(集英社)、『カムイの海』(朝日新聞社)、『海のなかへ』『熱帯夜』(小学館)、『沖縄珊瑚海道』(アスペクト)など多数。第13回木村伊兵衛写真賞、第9回文化庁芸術作品賞、第12回東川写真特別賞、第28回講談社出版文化賞写真賞、ほか受賞多数。今秋はニューヨークの海へロケに行くほか、「フォトセミナー in パラオ」ツアー(11/8-12)を予定している(アクアマジックツアー / 03-5457-1303)。



## 編集後記

99年秋に35年の歴史に幕を閉じた「富士山レーダー」。今年9月には解体・撤去され、おなじみの白いドームも姿を消します。1964年、世界で最も高所に設置された気象レーダーは、日本の台風観測の切り札として大活躍しましたが、気象衛星「ひまわり」の登場や設備の老朽化により廃止が決定。代わって、細かい観測を行う新型レーダーが静岡と長野に設置され、集注豪雨など局地的な観測に役立っているそうです。不用なものは取り去るのが時代の流れとはいえ、富士山頂のシンボルともいえるドームがなくなってしまうのは、少し淋しい気がします。(H.K)

FIND 2001年9月発行 Vol.19 No.5 通巻94号

発行 富士通株式会社 電子デバイス事業本部

企画編集 FIND編集委員会

お問い合わせ先 富士通株式会社 電子デバイス事業本部

FIND編集事務局

〒163-0721

東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル

TEL 03-5322-3351 FAX 03-5322-3395

株式会社シークコーポレーション

印刷